

会 議 議 事 録

1 会議名	令和4年度 第1回 長岡市子ども・子育て会議
2 開催日時	令和4年7月28日（木曜日） 午後3時から午後5時まで
3 開催場所	ながおか市民防災センター 2階 研修室
4 出席者名	<p>(委員)</p> <p>渡辺美子委員長、山川千恵子副委員長、八木義克委員、 内藤貴志委員、金子敦子委員、樋口ゆり子委員、 宮下あさみ委員、若井仁資委員、久保田規子委員、 赤川美穂委員、田邊香織委員、五十嵐俊子委員、高橋美幸委員、 横澤勝之委員、秋田峻佑委員、古塩民恵委員</p> <p>(アドバイザー)</p> <p>小池由佳教授（新潟県立大学）</p> <p>(事務局)</p> <p>子ども未来部：水島部長 学校教育課：小林課長補佐 子ども・子育て課：深澤課長、佐藤課長補佐、長谷川係長、 大隅係長、松元主査、猪又主事 金子子どもナビゲーター、関谷子どもナビゲーター</p> <p>子ども家庭センター：大久保所長 保育課：恩田課長</p>
5 欠席者名	長尾正博委員、榎園早苗委員、成田涼委員、土田慶和委員
6 議題	<p>(1) 委員長・副委員長の選出</p> <p>(2) 令和4年度長岡市子ども・子育て会議について</p> <p>(3) 令和4年度子育て支援施策について</p> <p>(4) 児童館・児童クラブの在り方の検討について</p> <p>(5) 意見交換</p>
7 その他	アドバイザーからのまとめ

<p>8 会議結果の概要</p>	<p>議事 (1) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会が渡辺美子委員を委員長に指名 ・渡辺委員長が山川千恵子委員を副委員長に指名 <p>議事 (2) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.1に基づき説明した。 ・質問・意見等なし <p>議事 (3) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.2に基づき説明した。 ・質問・意見等は下記のとおり <p>議事 (4) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.3に基づき説明した。 ・質問・意見等は下記のとおり <p>議事 (5) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問・意見等は下記のとおり <p>その他については下記内容のとおり</p>
<p>9 会議内容</p>	
<p>1. 開会</p> <p>2. 委嘱状交付</p> <p>3. あいさつ (事務局)</p> <p>4. 委員自己紹介</p> <p>5. アドバイザー自己紹介</p> <p>6. 議事</p> <p>(1) 委員長・副委員長の選出 (事務局)</p> <p style="padding-left: 20px;">渡辺美子委員を委員長に指名 (委員長)</p> <p style="padding-left: 20px;">山川千恵子委員を副委員長に指名</p> <p>(2) 令和4年度長岡市子ども・子育て会議について (事務局)</p> <p style="padding-left: 20px;">下記資料に基づき事務局が説明 資料No.1「令和4年度長岡市子ども・子育て会議」 (意見・質問等なし)</p> <p>(3) 令和4年度子育て支援施策について 下記資料に基づき事務局が説明 資料No.2「令和4年度子育て支援施策について」 (委員)</p> <p style="padding-left: 20px;">妊婦さんへの支援も大事ですが、産後のお母さん達を支援していく制度を作ってほしい というのが助産師会としての意見です。産後ケア事業もありますので、気になる方がいれ</p>	

ば保健師さんに相談して、協議の上で何度か訪問する事もできると思いますが、予算が少ないなどの理由で断られる場合もあります。一度は助産師と保健師と一緒に同行訪問をするなどしてもらわないと、本当に困っているお母さんを助けられないし、産後の辛い時にフォローしてあげないと、その後の育児も嫌になってしまうので、その辺の支援についてももう少し考えていただきたいです。

もう一つ疑問なのが、稀なケースかと思いますが、例えば妊婦さんやご家族がアルコールやギャンブル依存だった場合、現金給付だと私たちがいいと思っている方向には使われなと思います。それが本当にその人の為になるのか疑問に思うので、現金ではなくてクーポンにするとか、そういったやり方を考えていただければと思います。

(事務局)

子育て支援施策はいろいろなやり方がある中で、とても悩んでいるところです。産後の支援が十分だから産前の支援をしたという考えではなくて、逆にその産前の部分が今まで足りなかったのかなという考え方で、新たに産前の支援として加えました。

産後ケアについては、子ども・子育て課と一緒に日頃お母さん達と関わっていただいていますので、そこで改めて議論させていただければと思います。

現金給付の件は非常に難しい問題でいろんなご意見がありますので、それも踏まえながら検討させていただきたいと思います。

(委員)

子宮頸がん予防ワクチンの積極的接種勧奨の再開のところで、3億円以上の予算をつけていただいているんですが、このワクチンについては、副反応の問題も含めてさまざまな意見があると思います。

安全性等も含めて、もし副反応が出た場合にはきちんとフォローができるという体制の周知もしていただきたいと思います。若いお母さん方は、昔の副反応の問題を全然知らずに、市から予防接種のクーポンが来たから受けなきゃと思って受ける方も多いので、いろんな情報をきちんとお知らせしていただいて、その中でお母さんやご本人に判断していただくという事を大事にいただければと思います。

2点目は、ヤングケアラーの支援のところで、今回研修会を開催して市としての支援体制を検討という事ですが、直接的な支援についてはどのようにされるのかお聞かせいただければと思います。

(事務局)

ワクチンのご意見につきましては、今年の5月に定期分とキャッチアップ分のお知らせをお送りしているところです。周知の際には、必要な情報を提示した上で接種するかを判断できるように、情報提供に努めてまいります。

ヤングケアラーについては、子どもナビゲーターと連携しまして、長岡市内の学校へのアンケートの中でヤングケアラーの状況を聞いております。小中学校、高等総合支援学校も含め、学校がヤングケアラーだと認識している、もしくは疑われる事例が、21世帯、23名おりました。

こちらについては、支援検討会を考えているんですが、養護教諭や相談員など実際に子ども達と関わる方を集めて、どのようにアプローチしていくのかを考えていきたいと思っています。家庭の中の問題ですので、あまり表に出したくないとか、子どもは助けてほしいと思っても、親は家庭に入ってほしくないとか、複雑な問題を含んでいるので慎重に検討していきたいと考えております。

(委員)

先日主任児童委員会で、ヤングケアラーについての動画研修会があったんですが、初めて知ることばかりでとても勉強になりました。

こういった動画研修会はどなたでも見れるので、教職員やその他の方々にも広く知っていただくことがおすすめだと思いました。

(委員)

学校現場では、子どもナビゲーターに卒業式が終わっても学校の諸経費を納めていただけないご家庭との間に入っていただいたりしておりました。最終的には3月31日に私が家庭訪問をして回収させていただいたんですが、ご家庭の背景まで知ることができず、ご相談に乗ってあげられなくて悪かったなという後悔がありました。

もう少し早く我々がキャッチして、誠意をもってご家庭と向き合う事ができれば、お互いに気持ちよく終わることができたかなと後悔の念があります。動画研修など見させていただき、そういったお子さんの早期発見や自立支援など、しっかり現場でできるようにやっていきたいと思います。

(委員)

ヤングケアラーはテレビなどでも取り上げられているので、目にすることが多いと思います。先日の動画研修会では、中学2年生と高校2年生のデータが示されていましたが、新潟県と全国とではほぼ同じで6%という事や、本人がヤングケアラーだと気付いていない子が多いというお話をされていました。

子ども時代に経験しなければならない遊びの時間を奪い、成長に影響を及ぼすというような心理学的なところまで深く掘り下げられた大変大事なお話でした。具体的な支援のお話を先程していただきましたが、それ以前に私たちが知っておかなければいけないことがたくさんあるなという気付きのある研修会でした。

(委員)

子育て支援施策についてなんですけども、予算規模が小さいので載っていないのかもしれないんですが、離婚される家庭の養育費の取り決めについて支援をするという事業が今年度新規で始まったかと思います。

ひとり親家庭の支援をしていると、養育費の問題は非常に大きいと感じます。離婚する時の支援はさまざまな支援があり、その中の一つとして、養育費の取り決めは非常に重要かと思いますので、今後拡充していただければありがたいです。

(委員)

子宮頸がんワクチンの積極的接種のことで、私の娘が積極的勧奨されていなかった9年

間の対象者のところに入っていて、接種しようか迷い接種期間に実施しませんでした。

娘も成人したので、子宮頸がんにかかるのが心配で自費で接種したんですけども、厚生労働省のホームページには自費で接種した分も保証すると書いてあったので、長岡市にも問い合わせたところそういった返答をいただきました。9年間の間に自費で接種された方への保証について周知していただければと思いますが、今後どう対応されるのかお聞かせいただければと思います。

(事務局)

国の方針がございまして、その辺りの制度を長岡市ではどのようにするか検討を進めているところです。できるだけ早くと思っはいるのですが、過去に遡るとなると、裏付け書類の取扱いですとか、法的にどうしたらいいのかといったあたりを関係部署と検討を進めておりますので、決まり次第お知らせしたいと思っております

(4) 児童館・児童クラブの在り方の検討について

(事務局)

下記資料に基づき事務局が説明

資料No.3-1「児童館・児童クラブの見直しについて」

資料No.3-2「児童クラブの課題と見直し方針」

資料No.3-3「具体的な見直し方法」

(委員)

初歩的な質問なんですけど、少子化で子どもが減っていている現状でも、共働きの影響で児童クラブを利用する児童数は今後も増える想定ということなんですか。

(事務局)

今の段階では児童クラブに預けたい家庭の割合がどんどん増えていることから、増えるか横ばいがしばらくは続くものと考えています。

(委員)

部活動も地域で見えていくような話もある中で、低学年の子たちが必ずしも児童クラブに行くのではなく、そういった部活のような活動に時間を使っただけとか、家庭によっては習い事の補助をするなどして、本当に児童クラブを必要としている家庭のみに絞らなければ、限界があるのではないかと思います。

共働き家庭が増えて受け入れ人数が増えていく中で、職員さんの負担も増えていくのがずっと続くとなると、先が見えないんじゃないかなと思います。

部活動のような地域との連携、横の繋がりなどはお考えでしょうか。

(事務局)

どこの世代までを預けた方がいいのか、子どもにとってどちらがいいのかも含めて、親としては預けたい、子どもとしてはどうした方がいいか、また地域の中でのいろんな選択肢を含めて、児童クラブに入れるのがいいのか、地域の中で遊ぶ方が大事なのかは議論の一つとしていきたい。

児童クラブに預けたいという方たちへの体制を維持し、持続可能にしていくためには、どういった形にしていくのか、いろんな視点を入れながら考えていきたいと思います。

(委員)

習い事との連携というお話がありましたが、送迎ができないので習い事をさせてあげられないというお母さん達の話をよく聞きます。連携を考えるのであれば、例えば児童クラブからプールまで送迎をしてくれるようなところがあれば、きっとお母さんたちも使いやすいんじゃないかなと思いました。

(委員)

大型の100人位の児童クラブと、20人30人で小学校の1クラス位の人数の児童クラブとでは満足度も違ってくるし扱い方も違ってくるので、これを一律に考えようとする大変かと思います。

うちの1年生の孫も今年から児童クラブに行っていますが、友達がいれば喜んで行くので、ただ高学年になってくると、遊びたい友達が児童館に来てないから遊べないというのもあるって、1人で移動ができるようになるとやっぱり窮屈さを感じるのかもしれない。

(委員)

先程の習い事のお話でいろいろ考えさせられることがあるんですが、公立民営化になると両方の良さが出てきて可能になるんじゃないかと思います。就労されている保護者にとっては塾やスポーツクラブに通わせたいというニーズがある訳ですし、都会の方ではそういうことをやっている児童クラブもあるようです。

それを実現していくのがこのワーキング部会の課題じゃないかなと思います。高学年も児童館に遊びに来てくれるようになって、地域の子ども達がたくさん来てくれれば、高学年でも児童館に行って友達と遊ぼうというふうになると思います。

一般の子は、スポーツクラブとかスイミングなどに通っている子が多いんですが、児童クラブの子は、児童クラブに行かなければ、そういったところに自力で通うことができるようになっていきます。公園や学校のグラウンドで友達と遊びたいという気持ちが強くなってきて、3年生以上ぐらいになると児童クラブを卒業していくというような実態です。

(事務局)

館長さんや児童クラブの職員には責任を持って子どもを預かっていただいているんですが、習い事などで何も言わずに児童クラブを出てしまって、子どもの居場所がわからなくなるということが起こっています。

どこまで子どもを預かって守らないといけないのかという事をクラブの皆さんには必死に考えて頂いているところですし、利便性だけを考えると、こういうシステムだったらうまく安全を確保できるけど、こういうのだったら難しいからここは線を引かなきゃいけないという事もあると思います。

そういった事も含め、総合的に見た中で子どもたちにとってどれが1番時代に合っているのか、持続できないような形にならないためにどんな工夫が必要なのか、メンバーの皆さんと議論していきたいと思っております。

(委員)

小学校の隣にも児童館、児童クラブがあり、子ども達が大変お世話になっております。子どもが何人いたら厚生員が何人つくとかそういった基準はあるのでしょうか。

(事務局)

国の基準で、学校の教室と同じくらいの40人程度の1部屋を、厚生員2人でみるという指針が出ております。登録されている方全員が利用する訳ではないので、6割程度の利用の中で全体を見ながらそういった基準のもと運営しています。

(委員)

厚生員の負担が大きいということで、学校もちろんですけど、支援する子どもがだいぶ増えてきています。学校現場では、市から教育補助員や介助員を入れてもらっていて、支援が必要な子ども達はその方達にあたってもらっています。

厚生員さんたちが大変だということであれば、マンパワーが増えれば支援が必要な子どもたちに付けるのではないかと感じました。

(委員)

この方針でいいかと思いますが、その前提として、長岡市子育て・育ちあいプランの基本理念の「育つ喜び 育てる幸せ みんなで子育てするまち 長岡」があるので、そこを1番にして、その上での3つの方針ということで確認いただければと思います。

(5) 意見交換

(事務局)

コロナ禍・物価高騰の中での子育て支援の課題について

(委員)

コロナ禍ということで、学校や医療機関などもそうかと思いますが、現場では陽性者で大変な事になっています。先程の児童クラブの話にもありましたが、保育園でも子ども何人に対して職員が何人と決まっていますので、陽性者が出ると人手が足りず現場が回らなくなり、それが1番の課題だと感じています。

職場の病後児保育施設では、陽性者または濃厚接触者のお預かりはできません。それ以外の風邪の方は利用できますが、ここ2年は他の感染症が落ち着いていたのに、今年は春から他の感染症も流行しています。お母さん達としては預ける場所がなく、保護者にとっては辛い状況ですので、私たちにできることは何かと日々思っているところです。

(委員)

子ども2人と妻と暮らしており、他県から移住してきた者としては市独自の支援が非常に助かりました。引っ越してきて、経済面で不安があった中で支援金をいただけて助かりました。マタニティライフ応援金も、妊娠期間中に現金給付があると助かるという話を職場で聞いたので、すごくいいなと思いました。

このコロナ禍に子どもが生まれまして、長男の時もそうだったんですが、妻の要望で助産院で出産しました。コロナ禍という初めての経験の中でも、出産に立ち合えたことがそ

の後の子育てにも影響が出ましたし、他の病院だったら立ち合いも面会もできない中で、助産院では感染対策していただきながら、コロナ前と同じように出産前後の経験をさせていただいたので、いいところだと個人的に思っております。

へその緒を私が切らせてもらい、こういったご時世にそういった経験をさせていただくことはすごくいいなと思っているので、長岡市も助産院のように産前産後に影響する施設や家族みんなで出産の喜びを共有できるようなものがあるといいなと思っています。

(委員)

幼稚園から認定こども園になりまして、今までは家庭で保育ができる1号認定のお子さん達が多かったんですが、今はほとんど共働きで、1号の中でも新2号とって、2号と同じようにお母さん達が働いている家庭がほとんどになりました。子供を預けたいという方が非常に多いですが、やはり家庭教育がすごく大事だと思っています。

このコロナ禍の中で、先ほどお話があった通り今年は感染症も多く、園の中で流行ると大変なので、37度5分以上ある時はお休みしてくださいとお願いしています。おうちの人がすごく気をつけてくださっているのも、まだ休園や学級閉鎖には1度もなっていませんが、やっぱり仕事を休みにくいとおっしゃる方がいますので、その中で休んでいただくのはすごく申し訳なく思っています。

それで幼稚園協会としても、企業の方で、預けられるようにするのではなくて、もう少し休みやすいようにならないかということ去年市長陳情でお願いしたところですが、なかなか難しいとは思いますが、都会と違ってテレワークも進みにくい地域だったりするので、やはりおうちの人が子どもの具合が悪い時に休みやすいような世の中で、家庭でしっかりと子どもを育まれるようなことも大事なかなと思っている次第です。

(委員)

本人や兄弟がコロナに感染した事がきっかけで不登校になったというお子さんの話を結構耳にしている、お子さんと関わる中でHSCとって、とても繊細で敏感なお子さん達が多いなという事を実感しています。

たとえば言葉で言わなくても、周りが自分の事をどう思っているか、どう感じてるかというのを敏感に感じるといえるか、気にされるお子さんが多いなと感じてるので、周りがそういった性質について理解をして、感染したお子さんを迎えるような温かい雰囲気作りを意識して作っていく必要があるのかなと感じています

(委員)

児童クラブの人員不足という点で、今働かせていただいている児童クラブで問題を起こす子がいて、毎日担当を決めているんですが、やはり手がかかるので、一緒に他の子も見てくださいとなるとなかなか全員を見るのは難しいところがあります。

今年の夏も人手不足で、2人入る予定が1人だけになってしまい現場が回らず、休みの日でも誰か入ってくださいということで、全部私が入っているような状態です。もう少し条件のいい雇用の仕方でも人員を増やしていただけたらと思います。

児童館の中のやり方についても、高学年が地区内だけでは物足りないから児童館に来な

いというのもあると思うんですけども、自分の働いている児童館の中では、高学年の子が遊ぶものがほとんどありません。新しい児童館になったので、初日はたくさんのお子さんが来られたんですけども、その時に高学年で、こういうのがあったら、せっかく新しい児童館ができたから遊びに行きたいなという子達がいたので、そういうところの改革ができればいいなと思っています。

(委員)

今日初めて参加して、とても実のある会議だなと感じました。

私は阪之上小学校を卒業しているんですが、小学校の時に伝統という授業がありまして、小林寅三郎とか河合継之助とかの話聞くことがあったんですが、米百俵って小学校の時からずっと言われてまして、人材教育人を育てるのはとても大事なことだなと思っていたので、それがあって市子連の仕事もしてるんですけども、子ども達の未来は無限大で日本や長岡市の未来を担ってくれるということもあるので、一人でも取りこぼしがないように、自立して生きていけるように、子どもたちの為に頑張っていたきたいと思います。

(委員)

私も今日初めて参加させていただきました。

私たち母子保健推進員は、3つの子育ての駅で“ままのまカフェ”をやっております。コロナ禍ということで昨年はやむを得ず中止になったりしましたが、今年に入りまして、今のところ全て実施しております。

お母さん達の声を聞くと、そういうのがあるなら行ってもいいよとご主人が言ったという感じで、やっぱりコロナが心配だから、できるだけそういう所に行くのは控えた方がいいと家族から言われてるという話もお聞きます。私たちも感染対策をしっかりしながらお母さん達、お子さん達のフォローをしていきたいなと思っています

数年前から私たちが思っている事は、3つの子育ての駅でちびっこ広場だけが駐車料金がかかってしまうので、1時間無料にはなりますが、子どもさんを連れて駐車場に車を停めて、遊んで1時間で帰るのは難しいのかなというところです。

お金を払ってでも行こうというお母さんもいらっしゃいますけども、せめて2時間くらいあればお母さん達もなんとかやりくりできるとおっしゃっています。以前そういう話をさせていただいた時に、電車とかバスで通えばいいという話もあったんですけども、大きな荷物を持って赤ちゃんとお出かけするには車じゃないとなかなかできないっていうのがあるので、ちびっこ広場は本当にいい場所ですので、お母さん方が手軽に使えるように考えていただきたいと思っています。

7. その他

(アドバイザーから)

最初に今年度の子育て支援施策についてご紹介いただきありがとうございました。マタニティライフ応援金についてご発言ありましたけれども、産後ケアの充実は本当に大事

だなどと思いつつ、産前のケアのところも、産前産後ケアという連続性の中で見ていく事ができるようになっていくのも大事かなと思っています。産前は、特に問題のない妊婦さんだと、母子手帳をもらうところから出産後まで、母子保健の方たちと接点がないというのも課題の一つなのかなと思いますので、こういう支援金がきっかけになるといいのかなと思って見ておりました。

そこも含めてなんですが、産後ケアの充実がなぜ必要なのか考えていくと、たとえば産後鬱って一体何なんだろうとか、全体の話の中でも言っていた、コロナ禍で不登校になってしまう子たちが持っている気質的なところというのは一体どういう事が起きているのかとか、そもそもヤングケアラーは何の問題なんだろうとか、今の子どもたちにどういうことが起きているから子どもや子育て家庭を支えなければいけないのかというところの共通の理解を深めていくということも一方で大事かなと思いました。

その中で、そこに関わる専門職の人たちをきちんと配置していくことと、質の向上ですね、人がいるということも大事なんですが、お一人お一人のスキルを上げていただくようなサポートも大事になってくるかなと思いながら聞かせていただきました。

コロナ禍がなかなか収束せず先の見通しが見つからない中で、これだけ長期化してくると子どもや子育て家庭もいろんな面で痛手を受けているのが現状かなという風に思います。いろんな形で子どもや子育て家庭に影響が出てくることも考えられますし、どんな影響が出てくるのか誰も経験していない中で、でも何が起きてるんだろうってということで、常にアンテナを張ってあまり後手にならないような施策が大事になってきてるかなと思います。

今年度の長岡市の取り組みがそういうところにも繋がっていくことを期待していきたいと思います。

8. あいさつ (事務局)

10. 会議資料 別添のとおり